

第 65 回神奈川建築コンクール 一般建築物部門審査総評

審査委員：鈴木 信弘

今年度の一般建築部門への応募作品は延床面積が 600 m²から 110,000 m²と巾が大きく建築用途も多様な 31 件であった。作品の特徴としては技術的な先進性をアピールしたものよりも都市、地域、環境に対して密接に根差して、相互の関係を深めていこうとする作品が多かったように思う。

選考は書類で応募作品の資格を確認、各審査委員がつけた評価点の合計点の上位から精査し、合議の上現地審査の対象となる作品を 10 件に絞り込んだ。なお、2 次審査の候補作に辞退の申し出が 1 件あった。神奈川建築コンクールは建築主、設計者、施工者の 3 者を表彰するので、審査方法等についても確認の上で応募していただきたいと思う。現地審査は 8 月 16・17 日、新型コロナ感染防止の配慮によって今年度も web 上での説明とオンラインでの動画・実況中継により行い、最優秀賞を 1 点と優秀賞 7 点、またアピール賞 1 点を選定した。

最優秀賞の「**関東学院大学 横浜・関内キャンパス**」は、地下 1 階地上 5 階までを一般市民に開放し、学生と交流できるという構成で従来の都市型高層キャンパスが管理上避けてきた形式であるが、駅前という立地条件を受け入れて利用場所を積極的に公開し、災害時の一時避難拠点として配慮するという試みが総合的に評価された。

優秀賞の「**かしまだ保育園**」は、敷地の特殊条件を活かした風車型のユニークな形態であるが、収納と水回りをまとめた箱に面材耐力壁を集中させることと、8 畳間の組み合わせによって園児のアクティビティを誘発し、自由に「場」をしつらえることができるという計画のアイデアは巧みであり、経済性、合理性、計画性をバランスよく練り上げたとても清々しい作品である。

「**Yokohama International School**」は、幅広い年齢の子供たちに多様な教育を促す「One School」を掲げた園舎。「オープンハブ」を中心に居場所を広く展開しており、太陽光の差し込むアトリウムを囲んだ構成が多様で弾力性のある運用の教育施設として魅力にあふれていた。

「**神奈川県立図書館 本館**」は現代の図書館に求められる多様な活動形態をまちに開く姿勢を建築で具体化。直射日光を遮る役目の有孔木パネルは夜になると、窓面書架に配架された本のシルエットをゆるく浮かび上がらせて紅葉坂の夜景を演出する。旧本館で多用されたホローブリックを一部に取り入れて連続性を意識していた。

「**ウェスティンホテル横浜／アパートメントベイ横浜**」は小さな一街区に商業施設、長期滞在型宿泊、ホテルの 3 つの要素を詰め込んだ複合施設である。歩道レベルには緑にあふれた歩行空間を積極的に提供し、上階の相当な大きさのヴォリュームを感じさせないような設計上の工夫が評価された。

「中外ライフサイエンスパーク横浜」は CASBEE 評価において最高ランクを取得している研究施設である。閉鎖的で威圧的になりがちな巨大施設を周囲に馴染ませるため十分な緑地帯や空地距離を確保して地域住民へ公開している。内部空間は一般公開されていないが、働き手に対して様々な新しい職場環境への取り組みを感じた作品である。

「カリタス幼稚園」は、旧園舎を通常どおり日常運用しながら、周辺の空地をうまく使って難しい建設工程に取り組んでいる。みんなで園舎をつくるという夢を子供と教師との協働型プロセスによって関係者が一体となって取り組み、設計者と施工者がそれを積極的に進めている過程を評価したい。

「SIGMA 本社」は、精密機械のエンジニア達に天候・季節の変化を感じてもらえるよう、緑に囲まれた見通しの良い執務空間を提案している。日射遮蔽を考えたスレンダーな PC の連続柱が美しく深い表情を作る。

今回のアピール賞は「景観」で選出した。地域の歴史的建造物である民家への高さの配慮など周辺との調和を図りつつ、高度な収蔵庫の計画と沈下地盤対策などの取り組みが優れているとして「茅ヶ崎市博物館」とした。